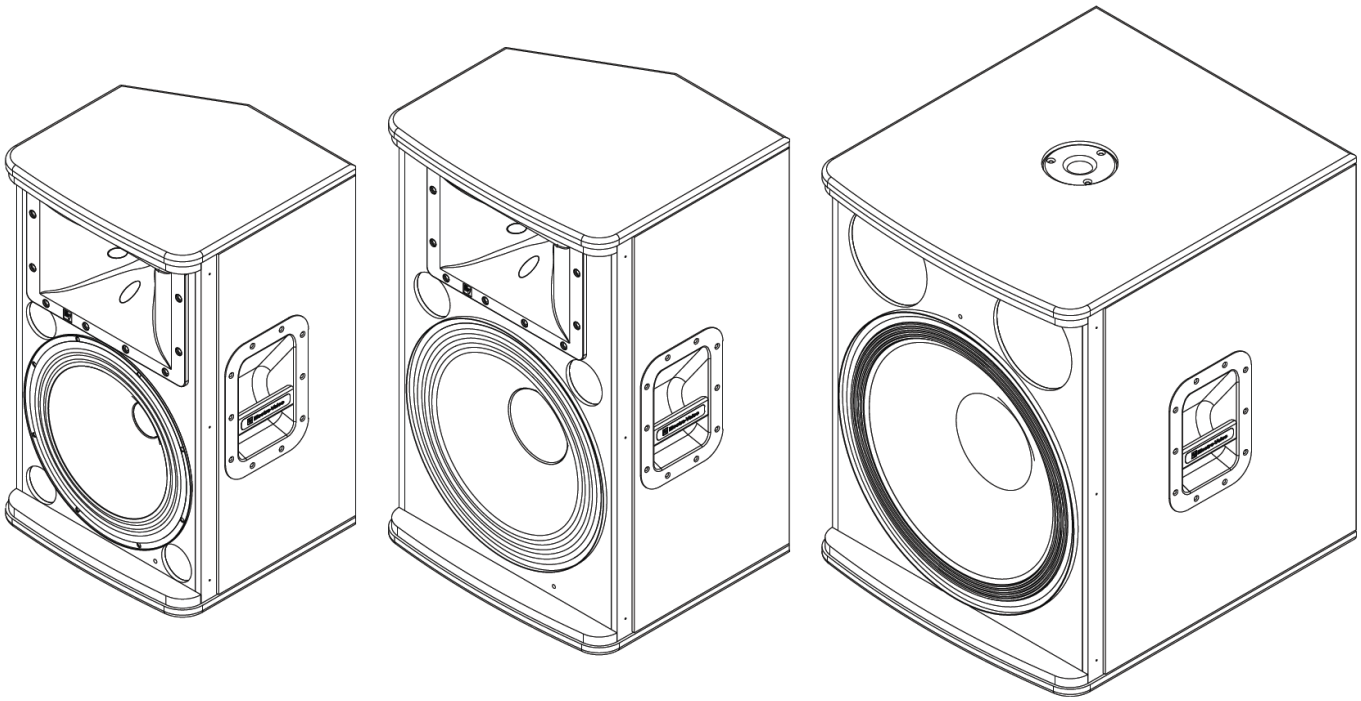
Live X

パワード・スピーカ
取扱説明書



ELX112P
ELX115P
ELX118P

Live For Sound
www.electrovoice.com

Live X

安全にお使いいただくために

正三角形に電光と矢印がある記号は、製品のケース内に絶縁されていない「高圧電流」が流れ、感電の危険があることを警告するものです。

WARNING: TO REDUCE THE RISK OF FIRE OR ELECTRIC SHOCK, DO NOT EXPOSE THIS APPLIANCE TO RAIN OR MOISTURE.
AVIS: RISQUE DE CHOC ELECTRIQUE. NE PAS OUVRIR.

正三角形に感嘆符のある記号は、本装置の取扱説明書に記載されている操作と保守（整備）の重要な指示への注意を喚起するものです。

WARNING: CONNECT ONLY TO MAINS SOCKET WITH PROTECTIVE EARTHING CONNECTION.

正三角形にアスタリスクのある記号は、本スピーカー・システムに関連する装置とハードウェアの必要な設置と取り外しの指示を知らせるものです。

1. 安全に正しくお使いただくために、取扱説明書をお読みください。
2. 取扱説明書はいつでも見られる所に保管してください。
3. 警告の内容すべてに注意してください。
4. 取扱説明書に従って操作してください。
5. 本装置を水の近くで使用しないでください。
6. 汚れた場合は、乾いた布で拭いてください。
7. 換気口をふさがないでください。取扱説明書に従って設置してください。
8. ラジエーター、通気調節装置、ストーブなどの熱源、またその他の熱を発生させる装置 (アンプを含む) の近くに本装置を設置しないでください。
9. 有極プラグやアース・プラグの安全な目的を無効にしないでください。有極プラグには幅の違う 2 枚のブレードがあります。アース・プラグには 2 枚のブレードと、1 つのアース棒端子があります。広いブレードまたは 3 本目の棒端子は安全のためのものです。付属ケーブルのプラグがコンセントに合わない場合は、電気工事店に依頼し古いコンセントを新しいものと交換してください。
10. 電源コードや電源プラグに無理な力が加わらないように保護してください。
11. メーカー指定の取り付け具/付属品以外は使用しないでください。
12. 雷が鳴り始めた時や、長期間使用しない時などは、電源プラグをコンセントから抜いてください。
13. 保守整備は資格を持っている担当者に相談してください。電源コードやプラグの損傷、装置が損傷した、水や異物が入った、装置に雨水がかかった、正常に動作しない、あるいは落とした場合には修理を依頼してください。
14. 本装置に液体が落ちたり、飛散したりしないように注意し、液体の入った物を装置の上に置かないでください。
15. 本装置を AC 電源から完全に切断するには、電源プラグをコンセントから抜いてください。

予防策

- Live X シリーズ･パワード･スピーカ･システムを快晴の屋外で使用する場合は、スピーカを日陰または屋根のある場所に設置してください。アンプには保護回路が組み込まれているので、極めて高い温度に上がるとスピーカは一時的にオフになります。これは暑い日、スピーカに直射日光が当たった場合に起こります。

- Live X シリーズ･パワード･スピーカ･システムは+ 40℃ (104°F) を超える環境で使用しないでください。

- Live X シリーズ･パワード･スピーカ･システムを雨水、高湿度にさらさないでください。

- エレクトロボイスの Live X シリーズ･パワード･スピーカ･システムは、カバーエリアの範囲内にいる人が永続的な難聴になるほどの音圧レベルを簡単に生成できます。長期間 90 dB を超える音圧レベルにさらされないように注意してください。

目次

安全にお使いいただくために 2
予防策 3
目次 3
製品の紹介 4
クイック・セットアップ 4
システムの特徴 5
システムの特長 6
スタンドとフロア・モニタ 7
アンプのコントロール 9
推奨する構成 12
仕様 15
寸法 16
周波数特性グラフ 17
トラブルシューティング 18
注記 19

Live X

製品の紹介

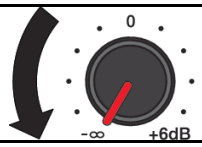
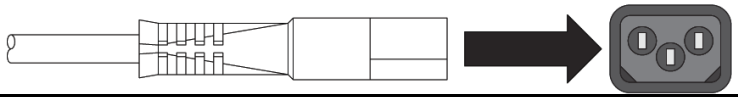
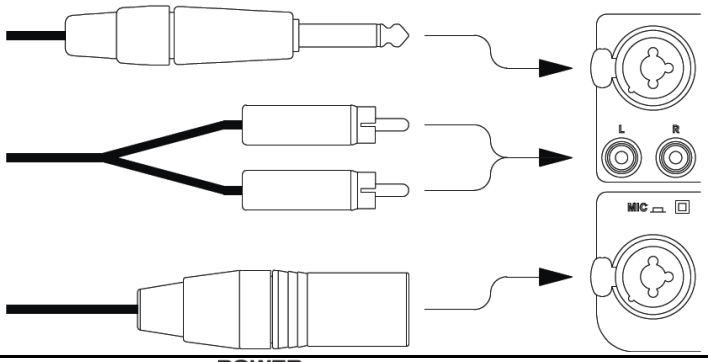
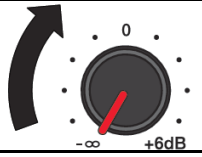
このたびはエレクトロボイス Live X シリーズ･パワード･スピーカをお買い上げ頂き有難うございます。本書をお読みになり、エレクトロボイス・スピーカ・システムに組み込まれた機能を理解し、その性能をご活用ください。

エレクトロボイスのクリアでパワフルなスピーカ・システムは、世界中の注目を集める会場や大イベントのステージでよく使われています。ステージですぐに使える Live X シリーズ･パワード･スピーカ･システムは、EV 設計のコンポーネントが頑丈な木製キャビネットに収容されています。Live X シリーズ･パワード･スピーカ･システムは本格的なサウンド向けの重要な機材です。

クイック・セットアップ

エレクトロボイス Live X シリーズ･パワード・スピーカ・システムは、入念にバランスを考えた電子機器とトランスデューサが完全に統合されたオーディオ・システムです。このシリーズは高品質のサウンド・システムを最低限のケーブルと外部電子機器ですばやく簡単にセットアップできます。

Live X シリーズ・パワード･スピーカ・システムをできるだけ迅速に動作させるため、次の手順を行ってください。

手順	説明図
1. INPUT LEVEL つまみと LOUDSPEAKER LEVEL つまみを-∞に回します。	
2. AC 電源コードをアース付きコンセントと電源差込口に差し込みます。	
3. XLR、TRS または RCA ケーブルを INPUT 1 または INPUT 2 に差し込みます。	
4. POWER を押して ON に設定します。	
5. INPUT LEVEL つまみと LOUDSPEAKER LEVEL つまみをゆっくり上げ、希望のボリュームに調整します。	

システムの特徴

ELX112P: 12 インチ 2 ウェイ・パワード・スピーカ・システム
ELX112P はコンパクトでパワフル、多目的に使えるパワード・スピーカ・システムです。軽量で耐久性に優れ、定格出力 1000 W のアンプを内蔵しています。

- DH-1K 1.5 インチ(3.81cm)チタン製ダイアフラムコンプレッションドライバ
- EVS-12K 12 インチ(30cm)ウーファー
- 周波数特性 50 Hz - 20 kHz : 最大出力音圧 = 132 dB
- 1000 W クラス D 軽量アンプ: 自然空冷
- バイアンプ設計。24 dB/Oct クロスオーバ・スロープとトランスデューサ保護付き。
- サブウーファー使用時は 100 Hz ハイパスフィルタを選択可能
- 個別のゲイン・コントロール付きデュアル XLR / TRS コンボ入力
- ゲイン・コントロール付きステレオ RCA 入力 (Input 1)
- Mic / Line モードを切り替え可能 (Input 2)
- さまざまな用途に合わせて EQ モードを切り替え可能
- XLR パラレル出力。Pre または Post Mix オプションを選択可能
- 正面取付けの LED ロゴ。ON、OFF を選択可能
- 電源 ON パイロットランプと Limit インジケータ LED
- ポール・マウントまたは直接 ELX118P サブウーファーの上にスタック
- 90°x 50°カバレッジ・パターンの高域ホーン
- 15mm 合板筐体、内部補強、テクスチャーペイント塗装
- 60 度のモニタ角度

ELX115P: 15 インチ 2 ウェイ・パワード・スピーカ・システム
ELX112P の上位モデルで、15 インチ・ウーファーと 1000 W アンプの組み合わせで低域再生能力も優れ、大きな空間での SR に威力を発揮します。

- DH-1K 1.5 インチ(3.81cm)チタン製ダイアフラムコンプレッションドライバ
- EVS-15K 15 インチ(38cm)ウーファー
- 周波数特性 44 Hz - 20 kHz : 最大出力音圧 = 134 dB
- 1000 W クラス D 軽量アンプ: 自然空冷
- バイアンプ設計。24 dB/Oct クロスオーバ・スロープとトランスデューサ保護付き。
- サブウーファー使用時は 100 Hz ハイパスフィルタを選択可能
- 個別のゲイン・コントロール付きデュアル XLR / TRS コンボ入力
- ゲイン・コントロール付きステレオ RCA 入力 (Input 1)
- Mic / Line モードを切り替え可能 (Input 2)
- さまざまな用途に合わせて EQ モードを切り替え可能
- XLR パラレル出力。Pre または Post Mix オプションを選択可能
- 正面取付けの LED ロゴ。ON、OFF を選択可能
- 電源 ON パイロットランプと Limit インジケータ LED
- ポール・マウントまたは直接 ELX118P サブウーファーの上にスタック
- 90°x 50°カバレッジ・パターンの高域ホーン
- 15mm 合板筐体、内部補強、テクスチャーペイント塗装
- 60 度のモニタ角度

Live X

システムの特長

ELX118P: 18 インチパワード･サブウーファー
ELX 118P は ELX112P と ELX115P との組み合わせで最適な性能が得られ、低域の音を付加し、増幅された迫力を体感できます。

- EVS-18K 18 インチ(46cm)ウーファー。パワフルな低域レスポンス
- 周波数特性 32 Hz - 130 Hz : 最大出力音圧 = 134 dB
- 700 W クラス D 軽量アンプ: 自然空冷
- フルレンジ・システム･サテライトマウント用ポール・ソケット内蔵
- XLR / TRS コンボ入力
- さまざまな用途に合わせて EQ モードを切り替え可能
- XLR パラレル出力
- 正面取付けの LED ロゴ。ON、OFF を選択可能
- 電源 ON パイロットランプと Limit インジケータ LED
- 15mm 合板筐体、内部補強、テクスチャーペイント塗装

スタンドとフロア・モニタ

フロア・モニタ
エレクトロボイス ELX112P と ELX115P パワード･スピーカ・システムは、フロア・モニタとして使用できます。次の点を確認し、設置してください。

- スピーカを平らで安定し、しっかりした面に置きます。
- 出演者、製作スタッフ、観客らがケーブルにつまずかないように配線します。可能ならばケーブルをワイヤ・タイやテープで固定します。

モニタ位置に設置したときのスピーカ正面の最適なカバレッジ・エリアは、図 1a と 1b を参照してください。

図 1a:
ELX112P / ELX115P の最適なカバレッジ
(正面図)

図 1b:
ELX112P / ELX115P の最適なカバレッジ
(側面図)

スタンドとフロア・モニタ

スタンド

エレクトロボイス ELX112P と ELX115P スピーカには 35mm (1-3/8”) スタンド・マウント・ソケットが付属しています。TSP-1 / TSS-1 各スピーカ･スタンドまたは、ASP-1 を使用して ELX 118P の上に設置が可能です。一般的に販売されている 35mm 径の接続部を持った汎用スピーカ･スタンドも使用可能です。次のことを確認し、安全に設置してください。

- 汎用スピーカ･スタンドを使用する場合、仕様を参照してスピーカ･スタンドの最大荷重を確認してください。
- スピーカ・スタンドを平らで安定した面に置き、スタンドの脚が完全に伸びているか確認してください。その構造上の完全性を損なわないようにしてください。
- 出演者、製作スタッフ、観客らがスタンドやケーブルにつまずいたり、スピーカ・システムをひっくり返したりしないようにケーブルを配線し、スタンドを配置してください。可能ならばケーブルをワイヤ・タイまたはテープで固定してください。
- 1 台のスピーカ･スタンドに複数のスピーカを取り付けないでください。
- スピーカが重くて安全にスタンドに持ち上げることができないと思われる場合は、誰かに手伝ってもらってスタンドに載せてください。

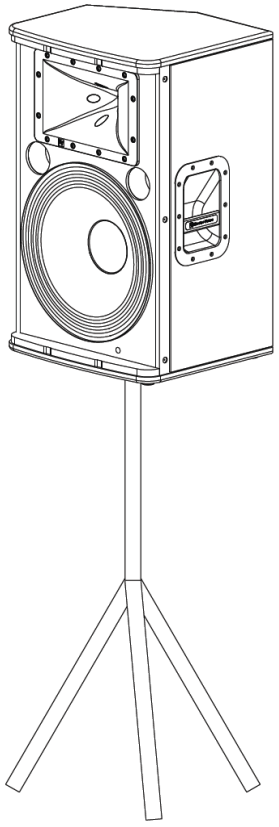


図 2a:
スピーカ･スタンドに乗せた ELX112P / ELX115P

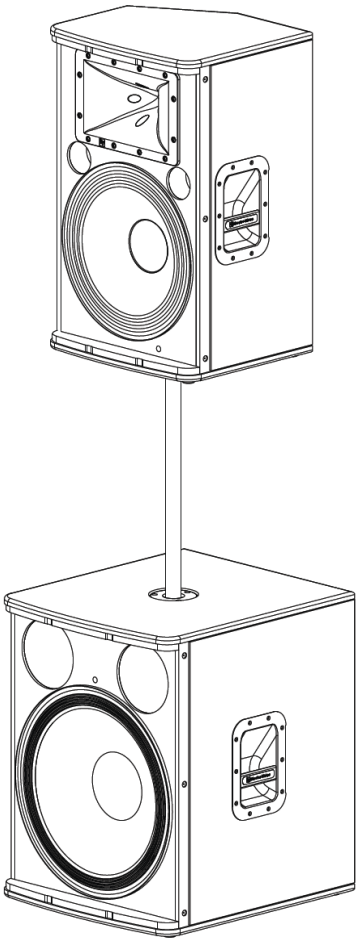


図 2b:
ポール・マウントを使った
Live X フルレンジ / サブウーファ・スタック

アンプのコントロール

Live X アンプには幾つかのコントロールとコネクタが装備され、非常に多目的に使えるスピーカ・システムを構成できます。各コンポーネントについては次ページで説明します。

***図 3a**:*
ELX112P / ELX115P (上記の例) アンプ・パネル

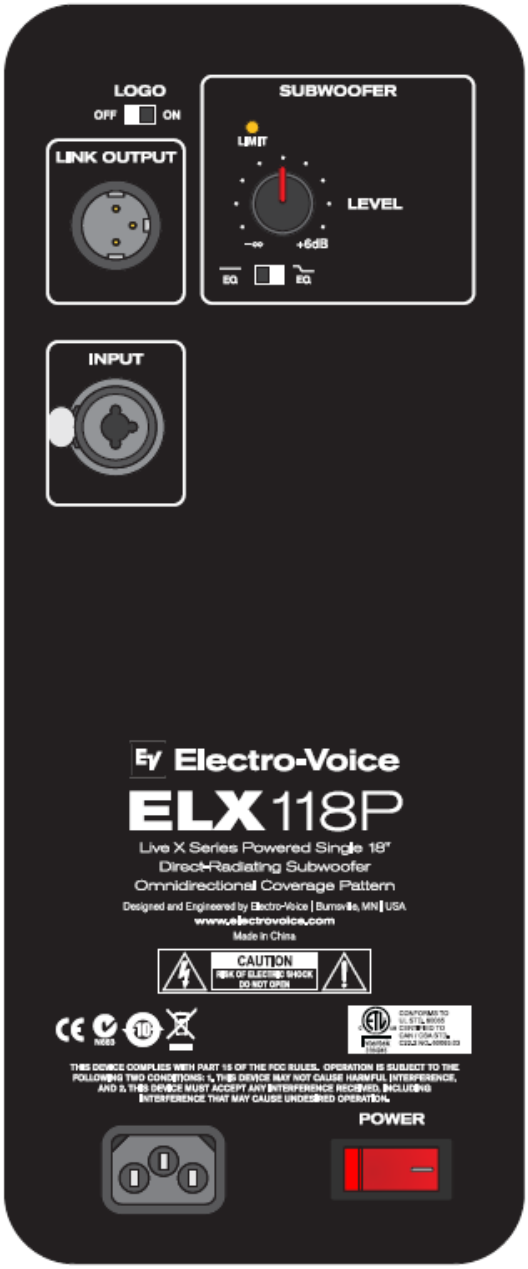
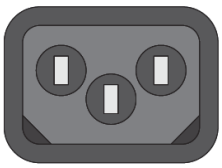


***図 3b**:*
ELX118P アンプ・パネル

Live X

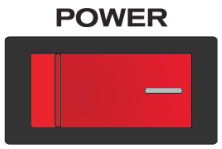
アンプのコントロール



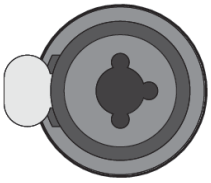
電源差込口
AC 接続は IEC コネクタ付きケーブルで行います。AC 電圧は 95V - 132V でなければいけません。

3m の IEC プラグ付き AC コードは付属品です。必要に応じ、延長コードを使って AC ケーブルを延長できます。ケーブルは適切なゲージを持つ 3 線ケーブルで、電気的な危険防止と外部ノイズ抑制のため適切に設置アースしてあることを確認してください。

高い信号状態では、Live X スピーカ・アンプは 100V では 2.0 アンペア以上の電流が流れます。電気的な問題と性能の低下を防止するため、同じ電気ラインに差し込む機器は注意して選択してください。



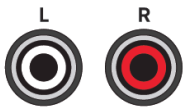
POWER
電力の ON、OFF を切り替える AC スイッチです。電源をオンにすると、スイッチが点灯します。電源を入れても LED が点灯しない場合は、AC コードを正しく接続してあるか、またコンセントに電気が通じているか確認してください。



XLR / TRS 入力
ELX115P、ELX112P の INPUT 1、ELX118P の INPUT はミキシング・コンソールやシグナル･プロセッサなどライン･レベル信号ソース接続用の電子バランス型入力です。接続は 1/4” TRS または XLR 型コネクタを使って行います。
ELX115P、ELX112P の INPUT 2 は MIC / LINE 切り替え式です。接続は 1/4” TRS または XLR 型コネクタを使って行います。

MIC/LINE
このスイッチを押すと、マイクロホン・プリアンプが起動され、INPUT 2 にダイナミック・マイクを直接入力できます。このスイッチを MIC モードにするときは、ペンまたはクリップの先で押してください。

注! MIC / LINE を MIC 位置にしたときは､ライン･レベル信号を INPUT 2 に入力しないで下さい。



RCA 入力
CD プレーヤーや MP3 プレーヤー接続用のステレオ・アンバランス型 RCA 入力です。両方の RCA 入力がミックスされ、そのレベルは INPUT 1 LEVEL を使って調整できます。入力は XLR / TRS INPUT 1 と同時に利用できます。

入力レベル
個々の入力の増幅調整用のレベル・コントロールです。このレベル・コントロールは個々の入力セクションのボリュームを調整します。

アンプのコントロール

FULL RANGE / WITH SUB
このスイッチを WITH SUB に設定すると、ELX118P サブウーファーと共に使うために 100 Hz ハイパスが起動されます。ELX112P / ELX115P を ELX118P サブウーファーと使用する場合は、常に WITH SUB を選択してください。

フルレンジ EQ
フルレンジの EQ スイッチはスピーカのトーンを調整します。スピーカをボーカル・モニタまたはスピーチに使う場合は EQ フラットが適し、音楽再生など低音と高音をよりブーストさせる必要がある場合は EQ ミッドカットが適しています。

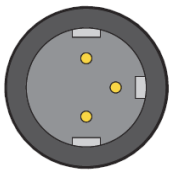
サブウーファーEQ

サブウーファーの EQ スイッチは最低域の拡張を行います。通常の使用時には EQ フラットが適し、ダンスミュージックなどより強調した低域が必要な場合には、EQ スイッチをオンにします。

スピーカ・レベル
スピーカのボリュームを調整するレベル・コントロールです。このレベル・コントロールは INPUT 1 と INPUT 2 両方のボリュームを変えます。ひずみとクリッピング防止のため、このコントロールは一般的に 0dB から+6dB までの値に設定してください。スピーカ・レベル・コントロールを調整してもリンク出力コネクタのレベルは変りません。

LIMIT
スピーカが限界で動作しているとき、この LED が点灯します。内蔵リミッタがひずみを抑えるので、ときどき点滅する程度ならば問題ありませんが、点灯した場合は、サウンドに悪影響を与えます。この場合は LOUDSPEAKER LEVEL つまみまたは INPUT LEVEL つまみを下げて限度を超えないようにしてください。

INPUT SELECT
XLR / TRS 1 に設定すると、XLR / TRS Input 1 からの信号は LINK OUTPUT へ送られます。INPUT 1 LEVEL は LINK OUTPUT のレベルに影響を与えません。RCA INPUT からの信号は LINK OUTPUT へ送られません。1+2 は INPUT 1 と INPUT 2 のミックスです。1+2 に設定すると、スピーカは基本 2 チャンネル・ミキサとして動作し、ミックスを LINK OUTPUT コネクタ経由で別のスピーカへ送信できます。

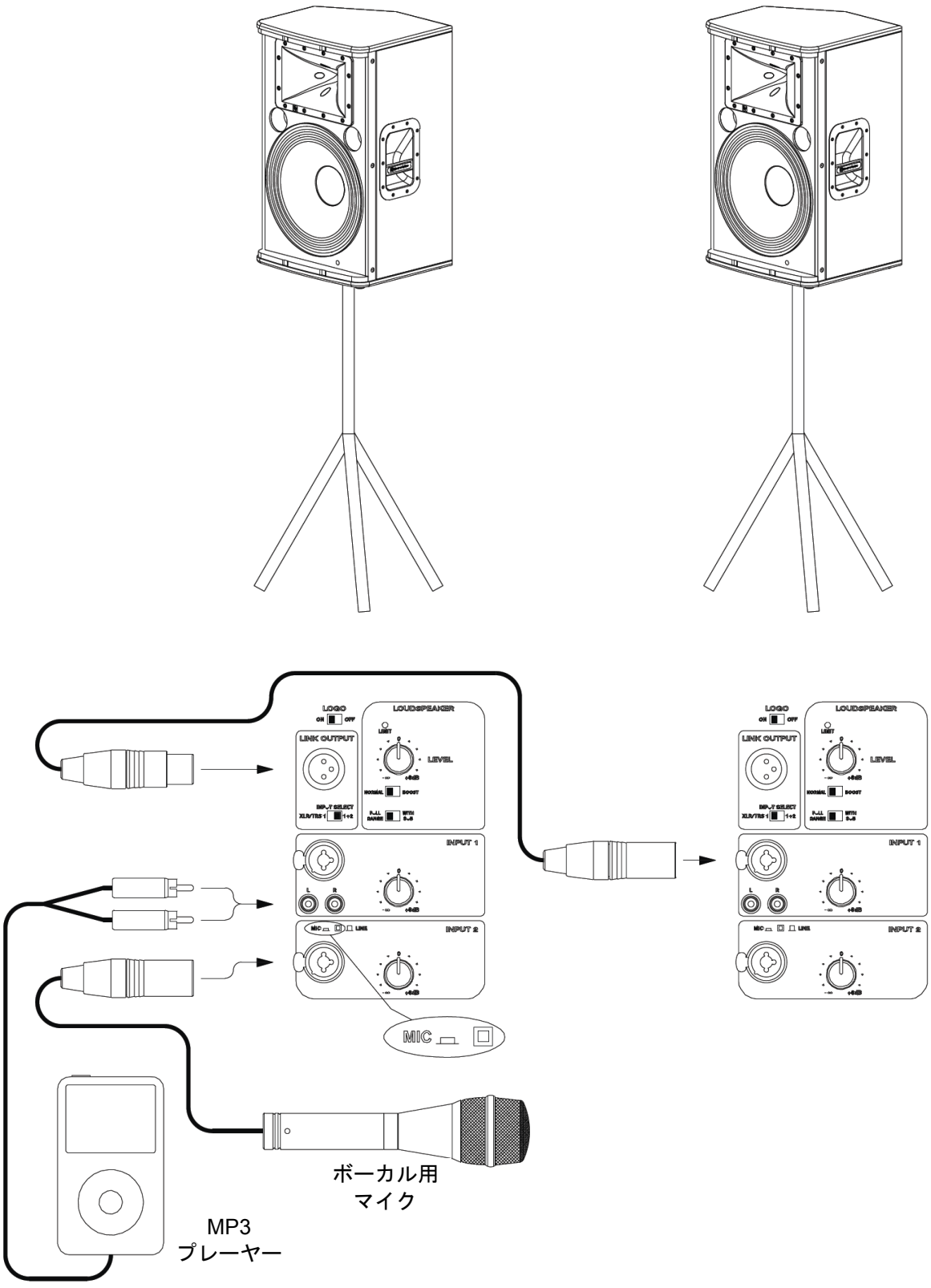


リンク出力
信号を別のスピーカまたはサブウーファーへ送るための XLR 出力コネクタです。出力は INPUT SELECT スイッチで選択したモードに従います。

LOGO
このスイッチを ON に設定すると、スピーカ正面の EV ロゴが点灯します。

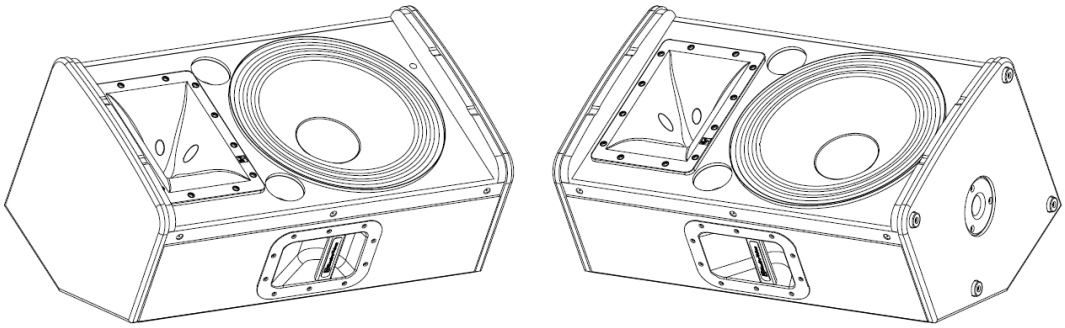
推奨する構成

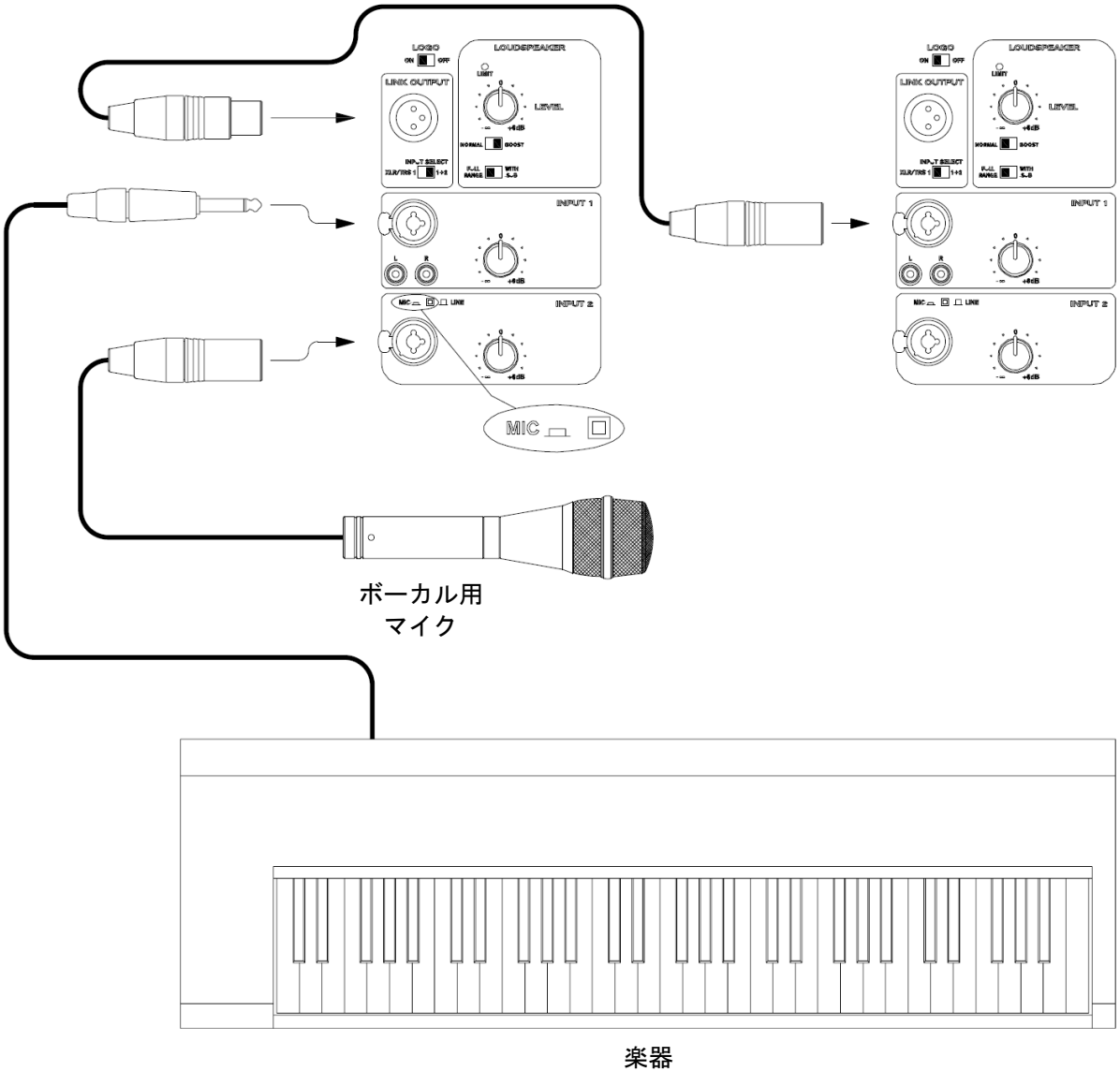
デイジーチェーン接続したフルレンジ・システム (ELX112P または ELX115P x 2 台)



推奨する構成

フルレンジ・システムをモニタとして使用 (ELX112P または ELX115P x 2 台)



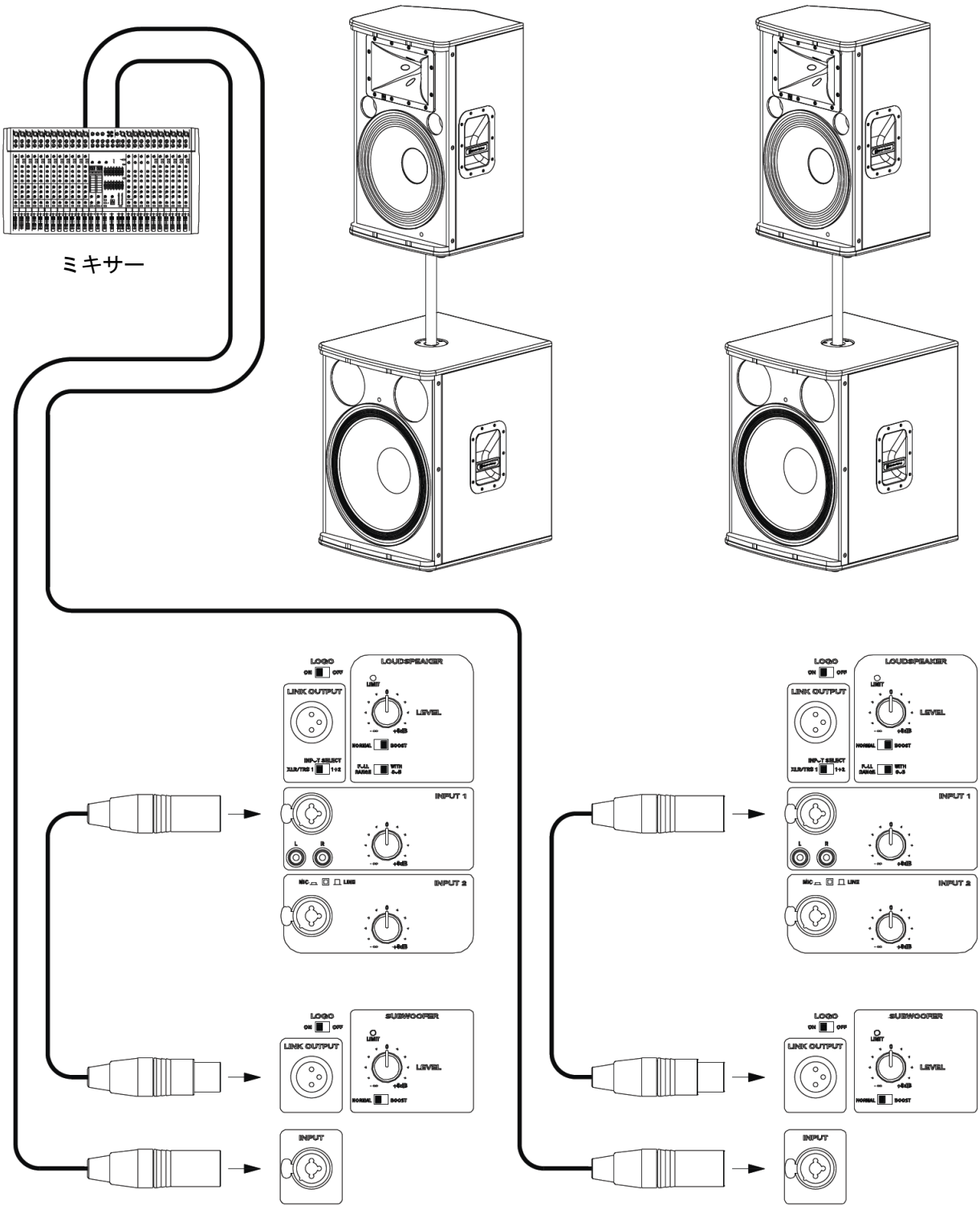


ボーカル用
マイク

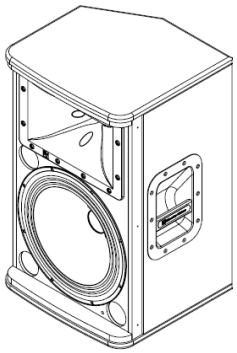
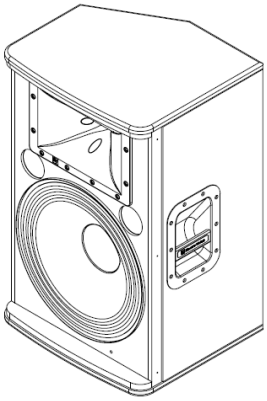
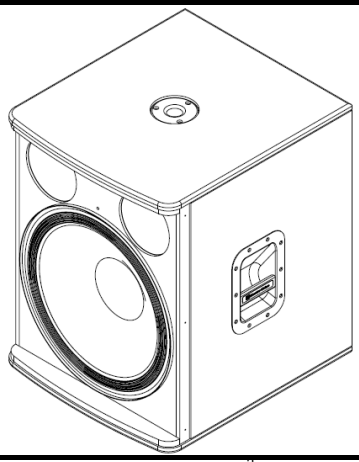
楽器

推奨する構成

フルレンジ・システムとサブウーファーのスタッキング構成 (ELX112P または ELX115P x 2 台、ELX118P x 2 台)



仕様

モデル (商品番号)	ELX112P F01U170820)	ELX115P F01U170821	ELX118P F01U170822
			
周波数特性 (-3 dB)	60 Hz - 18 kHz[1]	56 Hz - 18 kHz[1]	42 Hz - 100 Hz[2]
周波数特性 (-10 dB)	50 Hz - 20 kHz[1]	44 Hz - 20 kHz[1]	32 Hz - 130 Hz[2]
最大測定 SPL[3]	132 dB	134 dB	134 dB
指向性 (水平 × 垂直)	90° × 50°		無指向性
最大アンプ出力	1000W		700W
LF トランスデューサ:	EVS-12K, 12 インチ(30cm)ウーファー	EVS-15K, 15 インチ(38cm)ウーファー	EVS-18K 18 インチ(46cm)ウーファー
HF トランスデューサ:	DH-1K 1.5 インチ(3.81cm) チタン製ダイアフラム コンプレッションドライバ		N / A
クロスオーバー周波数:	1.7 kHz		100 Hz
コネクタ:	(2) XLR / TRS コンボ・ジャック、(1) ステレオ RCA、 (1) XLR リンク出力		(1) XLR / TRS コンボ・ジャック、 (1) XLR リンク出力
筐体の素材:	9 層、15mm 合板、内部補強、テクスチャーペイント塗装		
グリル:	18GA スチール、黒パウダーコート塗装		
寸法 (H × W × D):	607mm × 362mm × 340mm	708mm × 432mm × 382mm	661mm × 507mm × 574mm
本体重量:	16.8 kg	22.5 kg	31.3 kg
輸送重量:	20.7 kg	27.2 kg	38.0 kg
適合アクセサリ:	TSS-1 スピーカ·スタンド TSP-1 スピーカ·スタンド(1 ペア/TCB1 カバー付) ASP-1 サブウーファー·スタンド		ASP-1 サブウーファー·スタンド

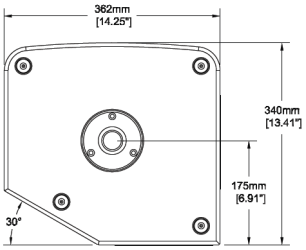
1 フルスペース測定、ブースト・モード、フルレンジ・モード

2 ハーフスペース測定、ブースト・モード

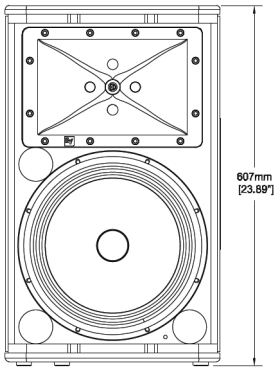
3 最大 SPL は最大アンプ出力時、広帯域ピンク・ノイズを使って 1m 離れたところで測定。

寸法

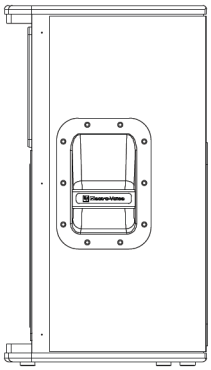
ELX 112P



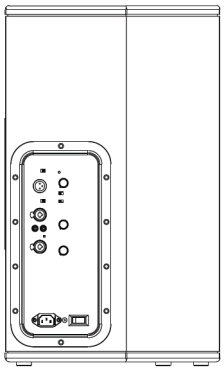
底面図



正面図

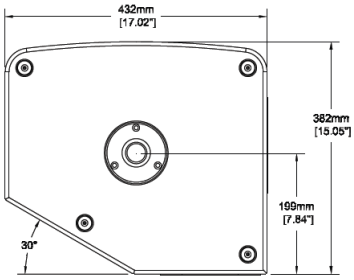


右側面図

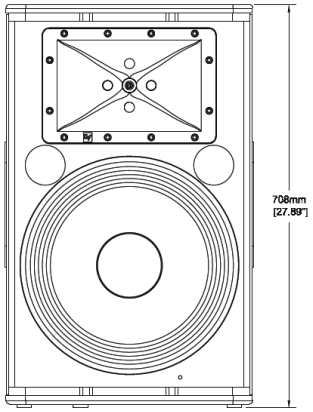


背面図

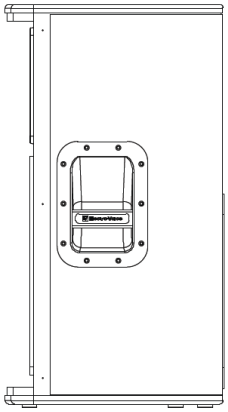
ELX 115P



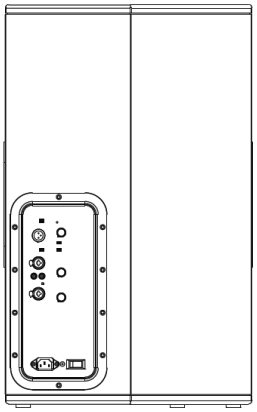
底面図



正面図

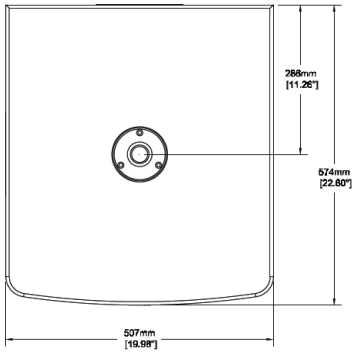


右側面図

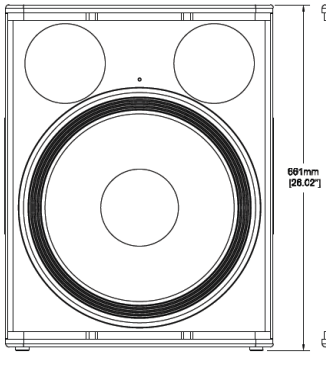


背面図

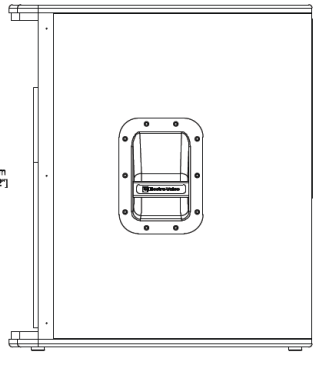
ELX 118P



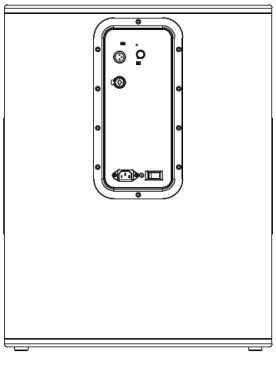
底面図



正面図



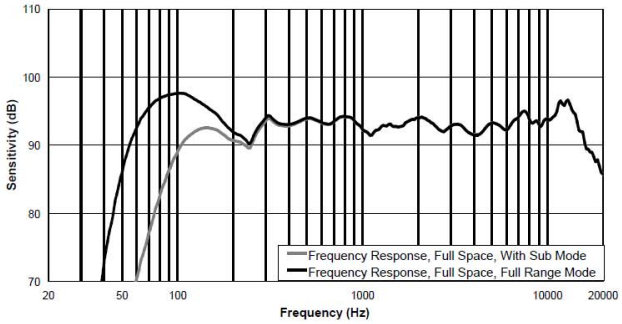
右側面図



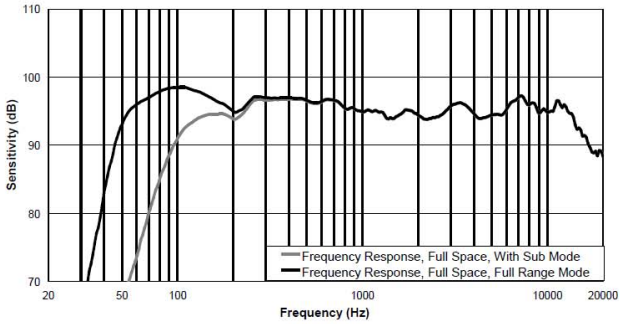
背面図

周波数特性グラフ

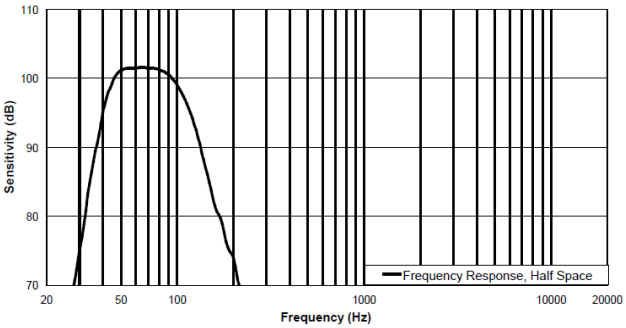
ELX 112P



ELX 115P



ELX 118P



Live X

トラブルシューティング

症状	考えられる原因	対応策
1. 電源が入らない。	電源コードが正しく接続されていない	本体背面の電源コネクタ部、電源供給コンセント部を確認してください。
2. 音が出ない	配線の問題	INPUT 端子に正しく接続されているか確認してください。
	ケーブルの問題	接続用ケーブルが断線、ショートしていないか確認してください。
3. フルレンジモデルの低周波数特性が不十分	WITH SUB スイッチがオンになっている	ELX118P を使用しない場合は、FULL RANGE / WITH SUB スイッチを FULL RANGE 位置に設定してください。
4. 断続的にパチパチというノイズやひずみ雑音がある。	接続不良	すべての接続をチェックし、ケーブルに汚れがなくしっかり接続されていることを確認してください。それでも問題が解決しない場合は、アンプまたは配線に問題があります。
5. 絶えずブーという音、シューッという音、ブーンというノイズが鳴っている。	音源またはその他の電子機器の不具合	ノイズがあり入力している演奏曲目が鳴っていない場合、おそらく電子機器の信号チェーンに原因があります。必要に応じて各コンポーネントを調べ、問題を特定してください。
	システムのグラウンドが不適切またはグラウンド・ループが発生している。	必要に応じてシステム･グラウンドをチェックし、修正してください。
	ゲイン構造が正しくない	音源のレベル・コントロールが適切に構成されていることを確認してください。MIC/LINE スイッチが正しい位置に設定されていることを確認してください。
6. INPUT 2 に接続したマイクの音が出ない。	ファンタム電源が必要なコンデンサマイクを使用している	ファンタム電源が必要ないダイナミック・マイクを使用してください。ファンタム電源が必要なマイクを使用する場合は、外部ファンタム電源が必要です。
	MIC / LINE スイッチが LINE 位置になっている	MIC / LINE スイッチを MIC 位置に設定してください。
7. 音がひずみ、LIMIT LED が点灯または点滅している。	入力レベルが高すぎる	入力レベルまたはスピーカのレベルつまみを下げ、限度を超えないようにしてください。
	ライン・レベル・ソースを INPUT 2 に接続し、MIC / LINE スイッチを MIC 位置にしている	MIC / LINE スイッチを LINE 位置に設定してください。
8. 音がひずんでいるが、LIMIT LED は点滅していない。	ソース入力 (ミキシング・コンソール / プリアンプ) がオーバードライブしている	ソースのレベル・コントロールが適切に構成されているか確認してください。
9. 入力レベルが増幅されたとき、ハウリングが起こる。	ゲイン構造が正しくない	ミキシング・コンソールまたは入力ソースでマイク・レベルを下げてください。マイクを直接スピーカに接続した場合は、スピーカの入力レベルを下げてください。 マイクを音源の近くに置くとフィードバック前のゲインが増加します。
	NORMAL / BOOST スイッチが BOOST 位置になっている	ボーカル用の場合は、NORMAL / BOOST スイッチを NORMAL 位置に設定してください。
	マイク位置がスピーカ前面に近すぎる	可能な限り、スピーカがマイクより前にくるようにセットアップしてください。スピーカをモニタ位置で使う場合は、スピーカをマイク背面に向けてください。
上記の対応策を講じても問題を解決できない場合は、最寄りのエレクトロボイス販売代理店にお問い合わせください。		

注記

EVI AUDIO

www.eviaudio.co.jp

株式会社 イー ブイ アイ オーディオ ジャパン

100-0014　東京都千代田区永田町2丁目13-1　Phone：03-5485-4427　Fax：03-3507-4422

品川サービスセンター／140-0002　東京都品川区東品川4丁目13-34 タカセ(株)東京営業所内　Phone：03-5485-4434　Fax：03-3450-9791

名古屋／Phone：052-331-9691　Fax：052-331-9592　　大　阪／Phone：06-6464-3109　Fax：06-6464-3099